

価値ある地域の資源を未来へ「つなぐ棚田遺産」



四季を通じてさまざまな美しさを見せる儀明の棚田。



上／トロノキハウス外観。下／力をあわせて稲刈り。



阿久澤さんのセンスが光る空間。

棚田が有する
多面的機能

山の斜面や谷間の傾斜地に階段状に作られる水田、棚田。人の手が作り出したこの文化的景観は、単に食糧を生み出すだけの存在ではありません。土砂崩れや洪水の防止（国土の保全、水源のかん養（育成や確保）、生物多様性の保全や自然環境の保護、美しい景観の形成、祭りなどの伝統文化の継承……と多岐にわたる機能を有しています。また、日本全国には地域それぞれの「物語」を紡いできた棚田が数多く存在しますが、地形的に生産条件が悪いことからその維持には多大なコストがかかり、農業の担い手の減少や高齢化と相まって、荒廃の危機に直面し

ているといえます。

価値ある棚田を次世代へ引き継ぐためのアクションとして、農林水産省では棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能への理解促進を目的に、優良な棚田を認定する「つなぐ棚田遺産〜ふるさとの誇りを未来へ〜」を実施しています。2022年2月には、北海道から鹿児島県までの271の棚田が改めて「ポスト棚田百選」に認定されました。JALグループは、「つなぐ棚田遺産オフィシャルサポーター」として、この取り組みを支援しています。

農泊で体感する
棚田の魅力

棚田の魅力を次世代に引き継ぐために、JALグループのネットワーク

を活かしてできることは何か？ その一つが、農業体験と観光を組み合わせ、都市部と地域の交流人口を増やす「農泊」の推進です。

地域と連携を深め、棚田を守る活動のヒントを得るため、JALふるさと応援隊の小川美奈実が、新潟県十日町市にある築100年の古民家を活かした「トロノキハウス」を訪ねました。市町村としては全国最多の14地区で棚田遺産が認定されている十日町市。この地で儀明の棚田を継承し、無農薬・無肥料による米作りを行いながらトロノキハウスを運営するのは、東京から移住した阿久澤剛樹さんです。

「棚田は先人が作った究極の自然であり、唯一無

二のアート。この素晴らしいさを都市部の人へ発信し、付加価値を生み出すことが、棚田の継承につながる」と阿久澤さん。その熱量に触れ、「洗練された雰囲気の中、美しき盛り付けられた玄米サラダなど、一つ一つに『付加価値』を付けることへのこだわりを感じました。『地域の持つ魅力を最大化して発信する』取り組みをまさに体現している、私もすっかり十日町の棚田やトロノキハウスのファンになってしまいました」と小川。

S

つなぐ棚田遺産
ふるさとの
誇りを未来へ

JALグループは、農水省が推進する「つなぐ棚田遺産〜ふるさとの誇りを未来へ〜（ポスト棚田百選）」の取り組みを、オフィシャルサポーターとして応援しています。全国271の棚田一覧など、詳しくは以下をご覧ください。



トロノキハウスの玄米サラダ

今回のテーマに該当する目標



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的な社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。